

平成二十三年度 国語 学力検査問題

四枚のうち、一枚目

受検 番号	番	氏名	
----------	---	----	--

(注意) 答えは、〈解答らん〉に書きなさい。

次の各文中の「」をつけた部分について、漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直して書きなさい。

- ① 額にあせをかく。 ② 貯金を下ろす。 ③ 動物を飼育する。
 ④ こくさい的な大会。 ⑤ じきゆうりよくをつける。 ⑥ さんそを取り入れる。

〈解答らん〉	①		②		③	する
	④	的	⑤		⑥	

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

鉄棒 ぼく 村野四郎

僕は①地平線に飛びつく
 僅かにあさが引つかかった
 僕は世界にぶら下がった
 筋肉だけが僕の頼みだ
 ②僕は赤くなる 僕は収縮する
 足が上がつてゆく
 い僕は何処へ行く
 ③大きく世界が一回転して
 僕が上になる
 高くからの俯瞰
 う両肩に柔軟な雲

※俯瞰…高いところからみおろすこと
 (村野四郎『体操詩集』より)

(一) この詩の中の「」をつけた部分①に、「地平線」とありますが、これは、何のことだと考えられますか。書きなさい。

〈解答らん〉

(二) この詩の中の「あ」には、漢字一文字が入りますが、どんな言葉がふさわしいと考えられますか。書きなさい。

〈解答らん〉

僅かに さきが引つかかった

(三) この詩の中の「」をつけた部分②に、「僕は赤くなる」とありますが、これは、なぜだと考えられますか。理由を書きなさい。

〈解答らん〉

(四) この詩の中の「」をつけた部分③に、「大きく世界が一回転して 僕が上になる」とありますが、この詩は、僕が「何」をして、「どうなっている」様子を表現しているのだと考えられますか。書きなさい。

〈解答らん〉

「何」	「どうなっている」

(五) この詩の中の「い」と「う」には、気持ちを表す言葉が入りますが、それぞれ、どんな言葉がふさわしいと考えられますか。ア～エから一つずつ選び、記号を書きなさい。

- ア ああ イ おお ウ わあ エ さあ

〈解答らん〉

「い」 「う」

平成二十三年度 国語 学力検査問題

四枚のうち、二枚目

受検 番号	番	氏名
----------	---	----

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(①～⑩は段落番号を示す)

- ① 消費者運動をやっているある市民グループが興味ある①実験をしました。同じ買い物リストで同じ量をスーパーと小売店(市場)で別べつに購入するというものですが、結果は、包装は重量で一・四倍、容積で四倍ほどスーパー側が多く、価格は逆に、スーパーが約四〇〇〇円なのにたいして小売店は約七〇〇円安い、と出ました。
- ② スーパーでは、サンマでもトマトでも、トレーにのってさらにラップに包んでいます。小売店は、魚屋さんでも八百屋さんでも裸売りが原則です。おやじさんが「きょうのサンマは生きがいいよ」などと声をかけます。トマトはそつと触つてみて「これは古いじゃない」「じや、これのほうがいいですよ」などと言葉がかわされます。スーパーではそんなことはありません。店員を少なくし、すなわち人件費を節約し、お客にセルフサービスさせるのですから、お客はだまつて品物を選び、最後にレジで、これまた言葉をかわすことなく清算します。いくえにも嚴重に包装するのは、このような売り方をするためです。
- ③ 人件費をおさえたスーパーのほうが安くていいはずなのに、②のために嚴重にした包装(すぐゴミになる)の代金を余分に払わされているような気がします。そうえ、包装ゴミの始末は自治体が消費者の税金で行っているのです。スーパーだけをやり玉にあげるわけではありませんが、ゴミを多くしている元凶のひとつであることはまちがいありません。
- ④ スーパーもまた高度経済成長の落し子です。スーパーが急速に増えたのは一九六〇年代でした。一九七〇年代には、二四時間営業(最初は午前七時から午後一時まででした)のコンビニエンスストアが登場します。いまではすっかりなじみのこれらの店は、③それ以前にはなかったものです。
- ⑤ 牛乳とかジュース、酒などの紙パックがあります。ビニール(プラスチック)のコーティングで補強されたものです。これを一トン(一リットル容器に換算して約三万個)作るのに、輸入原木二〇本を要すると言われます。業界の発表によると、いま日本で、年間およそ四一億パック(一リットル容器に換算して)が生産されているそうです。すなわち一三・七万トンです。したがって二七四万本の原木が紙パックだけのために切り倒されている計算になります。
- ⑥ 使い終わった紙パックは、ほとんどの自治体(私のところも含めて)が回収していないので、消費者運動などの市民グループが無償の労力を提供して回収に努めています。いまのところ、回収率はとても一パーセントまでいかないそうです。だから四一億個の紙パックのほとんどがゴミになっています。つまり、一年間に「あ」本も原木が日本の焼却場で灰になるか埋め立てられているわけです。
- ⑦ 私のばあい、牛乳は重要な栄養源で毎日飲んでいますが、ところが以前のようなビン牛乳は、いまはほとんどみかけなくなりました。どうしてもパック牛乳を④飲まざるをえないのですが、⑤飲むたびに森林の破壊に手を貸していることになります。やりきれない思いです。
- ⑧ 以前、ビン牛乳は中味を買っていました。牛乳ビンは買ったお店に返しました。それは牛乳メーカーに戻され、そこで洗浄、消毒され、牛乳が詰められてふたたび消費者へとどく。つまり牛乳ビンは「メーカー→中間商店→消費者」のようにリサイクル(循環)していたのです。平均二〇回ぐらいはリサイクルすると言われました。ビンが破損すれば、粉碎して新しいビンに再生することができます。だから、リサイクルビンなどと言われます。
- ⑨ これにたいして、パックの流れは「メーカー→中間商店→消費者」のような⑥ワンウェイ(一方通行)となります。牛乳にかぎらず、ワンウェイは使い捨てと同じ意味で、ゴミを増やす「い」なのです。ところが、これは、メーカーや販売店側にとっては大変な利点になります。たとえば、紙パックは運送のコストが重いビンにくらべて安くつきます。いつばう消費者は中味だけを買うのではなく、みすみすゴミになる紙パックまでいっしょに買っているのです。ゴミとなれば、自治体の負担、すなわち消費者の負担で処理することになります。
- ⑩ 消費者はどのくらいパックのために代金を払っているか、いま私の手もとに資料がないのでわかりませんが、缶ジュースのばあいは、私の調べでは、一〇〇円のうち五〇円を缶代として消費者が負担しています。紙パックについては、皆さん調べてみたらどうでしょう。

